

竹刀剣道における剣道形の有効性について

The Validity of Kendo-Kata In Kendo-Shinai

1K05A171

花岡 弘樹

指導教員

主査 中村好男先生

副査 矢野尊之先生

第一章 はじめに

剣道の競技レベルは年々向上しており、現在では試合に勝つための様々な工夫がされている。しかし、本来の「相手を斬る」剣道から「相手に当てる」剣道が目立つ現状では、剣道形の重要性をもう一度認識する必要がある。そこで筆者は剣道の原点でもある剣道形に注目して、現代の竹刀剣道には足りない要素である、礼法の正しさ、刃筋の正しさを取り戻すことが出来るのではないかと期待して本研究にいたった。

第二章 研究方法

刀法の理論を探るためには、まず刀の誕生から剣術の発生、そして時代の移り変わりとともに次第に変化していく剣道の歴史について順を追って調査していく。そして日本剣道形についての説明、具体的な内容を記述した後に、日本剣道形の起源といえる刀を扱った諸流派と現代剣道の共通点や相違点を、刀と竹刀のつくりや構えなど、さまざまな角度で比較検討する。最終的には剣道形からしか取り入れることの出来ない精神や技、機会や間合いなどという理合いなど、現代剣道で実践すべき方法を精神的側面、技術的側面から考察していく。

第三章 剣道の歴史

刀の発生からはじまり、剣術の出現から各流派が生まれて、明治維新になり帯刀が禁止されるまで、剣道形は様々な工夫がなされて大正十年に現在の日本剣道形にあたる大日本帝国剣道形が制定された。それから一時期戦後の教育制度改革によって剣道は衰退したが、解禁と同時に全日本剣道連盟が設立されて各種大会が催されるようになった。現在では世界大会も三年に一度開催されており、剣道は日本だけでなく世界で広く行われる競技となった。

第四章 剣道形の存在意義

日本剣道形の稽古が少なくなっている現状で、形稽古の存在意義を、刀と竹刀との比較や日本剣道形制定に大きく影響を与えた小野派一刀流についての研究を通して考察していく。

第五章 剣道形が竹刀剣道に生かされる要素

剣道の理念からはじまり、刀や礼儀作法の重要性について調査した剣道形における精神的側面と、単なる当てに走らない打ち、すなわち相手を斬る打ちを身につけるための木刀稽古の有効性について考察した。竹刀では意識することのない反りや鎬を意識して打突を行うことで、刃筋正しい打ちを習得することができる。また木刀での形稽古により、自然と手の内が鍛えられるだけでなく、パターンが約束され

た稽古をすることによって、呼吸の取り方や間合いを自分のペースで研究できることも竹刀剣道に活かされる点である。

終章 本研究の結論

形稽古と竹刀稽古にはそれぞれの長所や欠点があり、それぞれの特徴を生かした練習内容にする必要がある。剣道形によって得られる効果は次の三点であることが分かった。1) 正しい握りで刃筋の通った打ちが身につく。2) 間合い、呼吸、機会などの要素を自分のペースで学べる。3) 昔の名残である礼儀作法を正しく身につけられる。

しかし、形稽古にも欠点があり、竹刀稽古も同様でどちらか一方に偏ってはいけないと考える。特に現在の竹刀剣道において、竹刀稽古での欠点が浮き彫りとなっており、相手を斬る打ちではなく、スピードに任せて当てに走る剣道が増えてきただけでなく、形稽古の長所が見直されることもなく、その練習量が減っているのが現状である。だからこそ現代剣道は形稽古の認識が必要であり、竹刀稽古だけである現状を見直す必要があると考える。剣道形の有効性について竹刀稽古に斬る技や礼法を取り入れた刀法の理論を剣道形の稽古を通して学び、両者を両立させることがこれからの剣道界の発展を左右するといっても過言ではないだろう。このように剣道形を現在の竹刀剣道に取り入れることで、これからの剣道界がより一層発展していくことを期待する。それと同時に本研究を通して形稽古と竹刀稽古において、選手たちがそれぞれで実際にどのような効果を実感するか調査する必要があるという課題が残った。